



TAKASAGO Thermal Engineering Co.,Ltd.

第137期 中間報告書

平成28年4月1日から平成28年9月30日まで

Contents

トップメッセージ	1
TOPICS	5
連結財務諸表	7
会社情報	9
株式情報	10

 高砂熱学工業株式会社

(証券コード：1969)



ごあいさつ

株主の皆様には、格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。
ここに、当社第137期第2四半期累計期間(平成28年4月1日から平成28年9月30日まで)の概況等につきまして、ご報告申し上げます。
株主の皆様におかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役会長兼社長 **大内 厚**

Q 当第2四半期までの市場環境についてお聞かせください。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、全体としては緩やかに回復する海外経済や国内の各

種政策効果を背景に、企業収益は改善に足踏みが見られるものの高い水準を継続するとともに雇用・所得環境は改善しました。また、最近では設備投資の持ち直しの動きに慎重さが見られますが、国内景気は

緩やかな回復基調を続けました。

建設業界および当社関連の空調業界におきましては、公共投資は弱含んだものの、民間設備投資は改善が見られ、全体としては比較的堅調に推移しました。

Q 当第2四半期の業績についてお聞かせください。

当社は、平成26年4月から開始した長期経営構想およびその第1ステップと位置づける当年度までの3か年中期経営計画に基づき、施策に取り組んでおります。グループの総力を挙げて採算性重視の受注活動および受注後における利益創造活動ならびにコスト低減に取り組んでまいりました結果、当第2四半期連結累計期間の業績は次のとおりとなりました。

受注高

当第2四半期連結累計期間の受注高は、前年同四半期連結累計期間(以下「前年同四半期」といいます。)を5.3%上回る1,523億15百万円となりました。
一般設備は前年同四半期を6.4%下回る906億99百万円、産業設備は前年同四半期を29.8%上回る571億34百万円となった結果、設備工事業は前年同四半期を4.9%上回る1,478億33百万円となりました。設備機器の製造・販売事業は、前年同四半期を22.9%上回る43億87百万円となりました。また、その他は、前年同四半期を5.7%上回る95百万円となりました。その構成比は、一般設備が59.5%、産業設備が37.5%、あわせた設備工事業は97.0%、設備機器の製造・販売事業が2.9%、その他が0.1%であります。

社 是

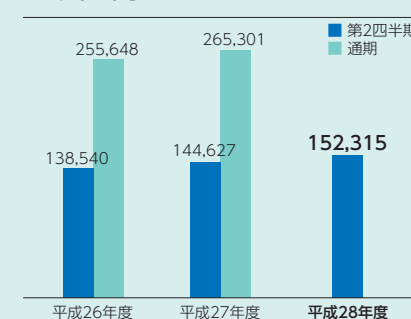
人の和と創意で社会に貢献

経 営
理 念

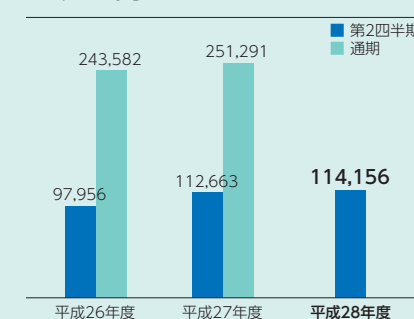
1. 最高の品質創りを重点に社業の発展を図り社会に奉仕する
2. 全員の創意を発揮し顧客のニーズに対応した特色ある技術を開発する
3. 人材育成と人間尊重を基本として人の和と品性を高揚する

連結財務ハイライト

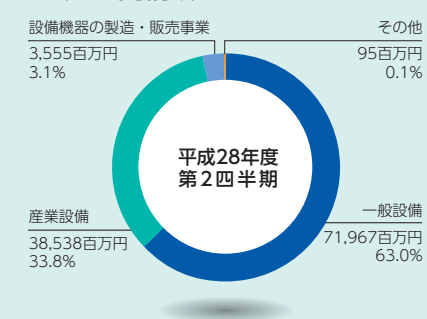
■ 受注高 (単位：百万円)



■ 売上高 (単位：百万円)



■ 売上高構成比



売上高

当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同四半期を1.3%上回る1,141億56百万円となりました。

一般設備は前年同四半期を5.3%上回る719億67百万円、産業設備は前年同四半期を5.5%下回る385億38百万円となった結果、設備工事業は前年同四半期を1.3%上回る1,105億06百万円となりました。設備機器の製造・販売事業は、前年同四半期を3.5%上回る35億55百万円となりました。また、その他は、前年同四半期を5.7%上回る95百万円となりました。その構成比は、一般設備が63.0%、産業設備が33.8%、あわせた設備工事業は96.8%、設備機器の製造・販売事業が3.1%、その他が0.1%であります。

利益

当第2四半期連結累計期間の利益は、営業利益は前年同四半期を57.8%上回る34億62百万円、経常利益は前年同四半期を27.6%上回る38億64百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同四半期を24.7%上回る23億84百万円となりました。

繰越高

当第2四半期連結会計期間末の繰越高は、前年同四半期連結会計期間末を8.6%上回る2,564億04百万円となりました。



通期の見通しについて
お聞かせください。

当社を取り巻く事業環境の今後の見通しにつつまし

では、アジア地域経済の先行きや英国のEU離脱問題等、海外経済の不確実性の高まりや、金融資本市場の変動の影響など不透明な要因はあるものの、国内景気は緩やかな回復基調を続けるものと思われます。

建設業界および当社関連の空調業界におきましては、公共投資は緩やかに減少するものの高めの水準を維持し、民間設備投資は改善傾向で推移することが見込まれる一方、労務需給のひっ迫等、工事利益の確保・改善に必要な経営環境が続くものと思われます。

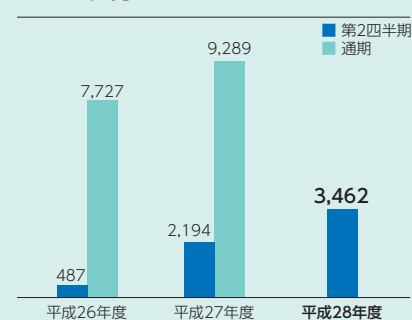
当社におきましては、東京オリンピックに向けた繁忙期および開催後を見据えるとともに、国際事業や環境ソリューション事業など中長期的な視点からの経営資源投入が重要課題となっております。

このような情勢のもと、当社は、引き続き、長期経

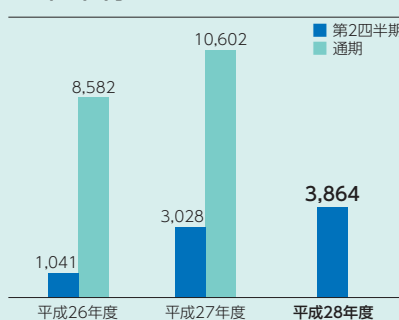
営構想の実現に向かって、変革の基礎づくりと位置づけた3か年中期経営計画の最終年度として諸施策を完遂してまいります。また、平成29年4月からの3か年を、成長に向けた変革の断行期間とする新たな中期経営計画を策定いたしました。詳細につきましては、平成28年11月10日付プレスリリース「高砂熱学グループ 新中期経営計画の策定について」をご参照ください。

なお、通期の連結業績および個別業績の見通しにつきましては、平成28年5月12日付決算短信において発表した予想数値を継続しております（連結：売上高2,570億円、営業利益95億円、経常利益103億円、親会社株主に帰属する当期純利益66億円、受注高2,630億円、次期繰越高2,242億円、個別：売上高1,970億円、営業利益80億円、経常利益92億円、当期純利益62億円、受注高2,000億円、次期繰越高2,060億円）。

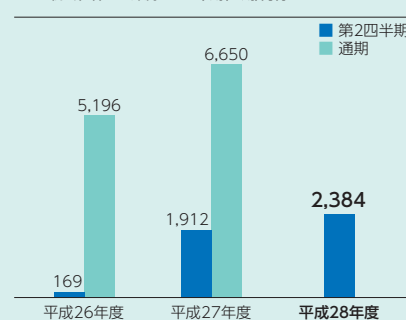
営業利益 (単位：百万円)



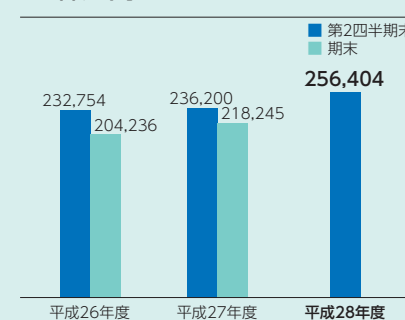
経常利益 (単位：百万円)



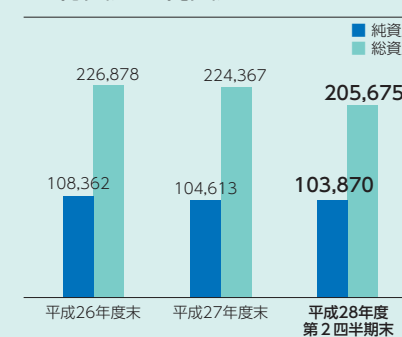
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位：百万円)



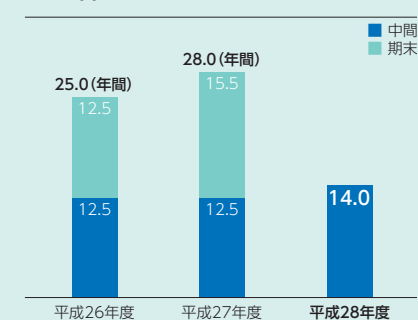
繰越高 (単位：百万円)



総資産・純資産 (単位：百万円)



1株当たり配当金 (単位：円)



当社既存技術を応用した「海水シャーベットアイス製造装置」を「第18回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」に初出展

当社は、0.05mm程度の氷粒径ときめ細かく滑らかな氷を実現した、海水シャーベットアイス製造装置(以下、SIS-HF)を「第18回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」に初めて出展しました。

SIS-HFは、当社の既存技術である氷蓄熱空調システムのコア技術となる空調用シャーベットアイス製造装置を応用し、約2年間の開発期間を経て今春、完成したものです。魚市場への導入事例に基づく当社のシャーベットアイス利用方法と効果を紹介したシーフードショー公式セミナーでは、国内外の来場者の関心呼びました。



ジャパン・インターナショナル・シーフードショー

魚介類をはじめ水産加工品、冷凍加工水産物から水産加工機械、冷凍・冷蔵機器ならびに最新の水産バイオ技術までが展示紹介される国内でも最大規模の“魚・シーフード・水産加工・鮮度保持技術の国際見本市”で、今回は平成28年8月17日～19日の3日間で行われ、海外バイヤーを含めた公式登録総来場者数は32,731名。

「高砂熱学の森」で森林保全活動を体験

当社は、CSR活動の一環として、本年度からグループを挙げて、国・都道府県が推進する「企業の森林づくり」に賛同し、全国的な活動を開始しています。現在、群馬県渋川市にある自然林「高砂熱学の森」を始め、京都府南丹市において「京都モデルフォレスト運動」、宮城県民の森において「みやぎの里山林協働再生支援事業」に参画しています。



高砂熱学の森

関東エリアの活動拠点となる「高砂熱学の森」は36haに及ぶ自然林で、「巨木の森」に育てるというランドデザインを描く長期プロジェクト。入社1年次研修や全国の支店・グループ会社から森林リーダーを育成するとともに、従業員とその家族を含めた体験活動を実施。自然の空調設備である森林から多くのことを学び、人財を育成してまいります。

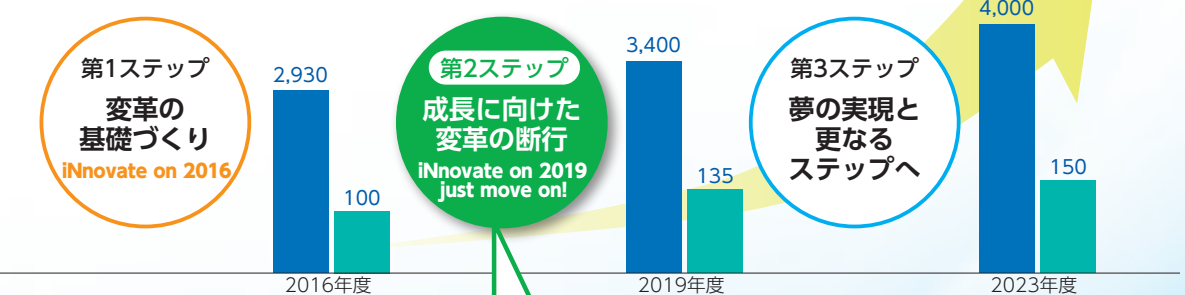
次期からの新中期経営計画を策定

当社は、平成28年11月10日、平成29年4月からの3か年中期経営計画「**iNnovate on 2019 just move on !**」を発表しました。新中期経営計画は、長期経営構想の第2ステップであり、「成長に向けた変革の断行」と位置づけ、2023年度を最終年度とする第3ステップ「夢の実現と更なるステップ」

プへ」とつなげる重要な3年間であります。「利益重視の徹底」「グループ総合力の発揮」の基本方針のもと、6つの重点課題に対する8つの重点取組事項を実行してまいります。詳細につきましては、当社ホームページをご参照ください。株主の皆様のご理解と一層のご支援をお願い申し上げます。

長期経営構想 **GReeN PRIDE 100**

連結数値目標(単位: 億円) ■ 売上高 ■ 経常利益



新中期経営計画「**iNnovate on 2019 just move on !**」の概要

基本方針

利益重視の徹底

グループ総合力の発揮

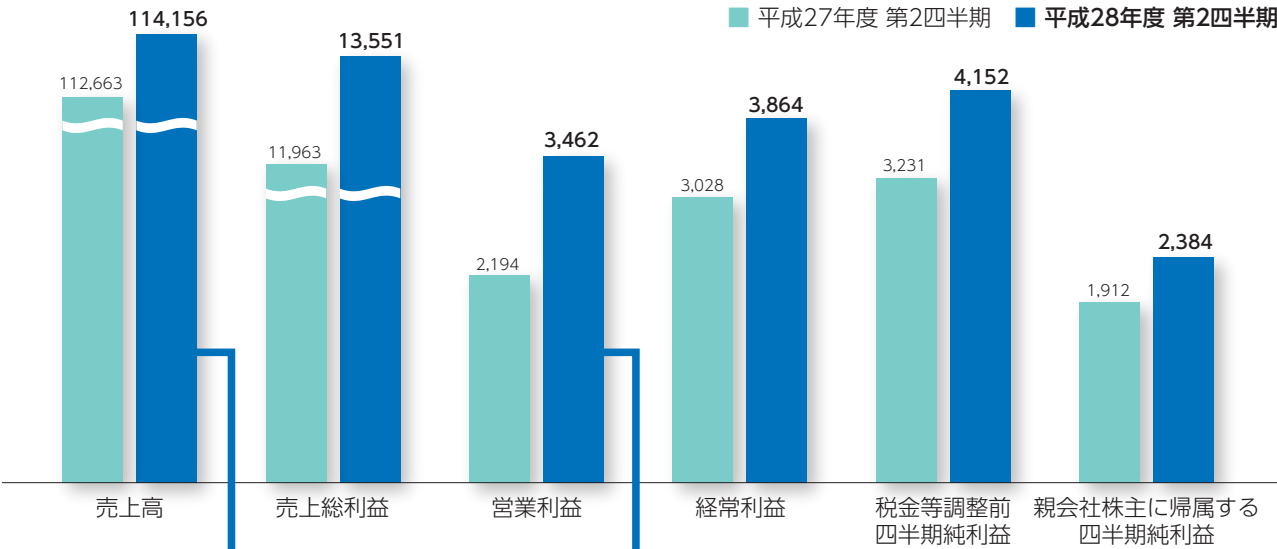
重点課題

- 稼ぐ力の強化
- グループシナジーの発揮
- 国際事業の収益安定化
- 柱となる新事業の構築
- 社員の活力向上
- 業務の革新

重点取組事項

- 現場力の強靱化
- グループ連携の強化
- 国際事業の再構築
- 非請負・非下請工事業への進出
- 新サービスの創造
- ワークライフバランスを実現する職場環境の構築
- 多様な人財の育成
- 変革への投資と経営基盤の強化(M&A等を含む)

連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



セグメント別概況

セグメントごとの業績は次のとおりであります(セグメントごとの業績については、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております)。

■ 設備工事事業

売上高は前年同四半期を1.3%上回る1,105億07百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同四半期を59.0%上回る33億53百万円となりました。

■ 設備機器の製造・販売事業

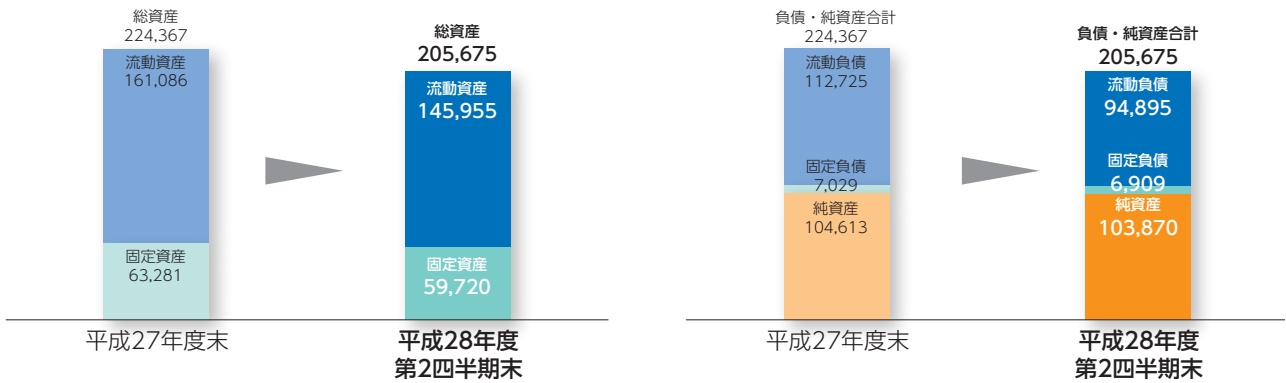
売上高は前年同四半期を5.3%上回る42億76百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同四半期を3.1%下回る69百万円となりました。

■ その他

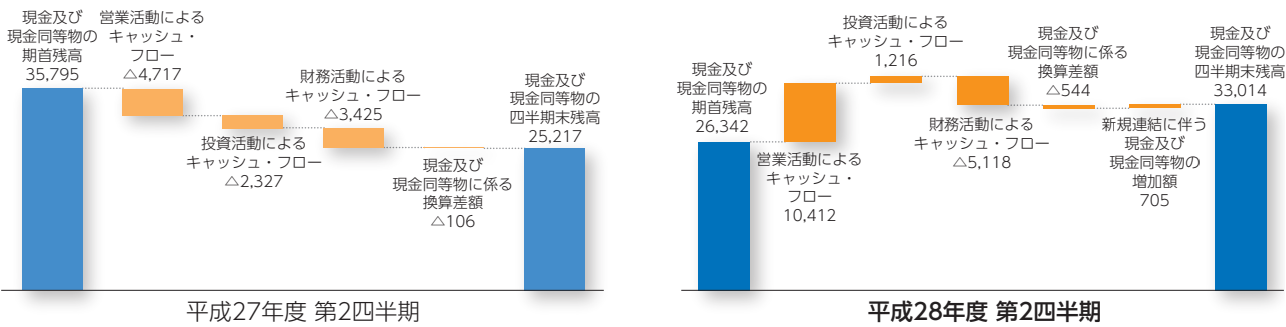
売上高は前年同四半期を4.5%上回る99百万円、セグメント利益(営業利益)は前年同四半期を98.6%上回る40百万円となりました。

平成28年度
第2四半期 売上高
114,156百万円
(前年同四半期比 +1.3%)

資産、負債および純資産の状況 (単位:百万円)



連結キャッシュ・フローの状況 (単位:百万円)



POINT 1 総資産は、受取手形・完成工事未収入金等が減少したことなどにより、前期末に比べて186億92百万円減少し、2,056億75百万円となりました。

POINT 2 負債は、支払手形・工事未払金等が減少したことなどにより、前期末に比べて179億49百万円減少し、1,018億05百万円となりました。

POINT 3 純資産は、為替換算調整勘定等が減少したことなどにより、前期末に比べて7億42百万円減少し、1,038億70百万円となりました。

POINT 4 営業活動によるキャッシュ・フローは、104億12百万円の収入(前年同四半期は47億17百万円の支出)となりました。これは主に売上債権の減少などの収入が、仕入債務の減少などの支出を上回ったことによるものであります。

POINT 5 投資活動によるキャッシュ・フローは、12億16百万円の収入(前年同四半期は23億27百万円の支出)となりました。これは主に投資有価証券の売却による収入によるものであります。

POINT 6 財務活動によるキャッシュ・フローは、51億18百万円の支出(前年同四半期比△16億92百万円)となりました。これは主に短期借入金の純減および配当金の支払いによるものであります。

会社概要

社 名
高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

設 立
大正12年(1923年)11月16日

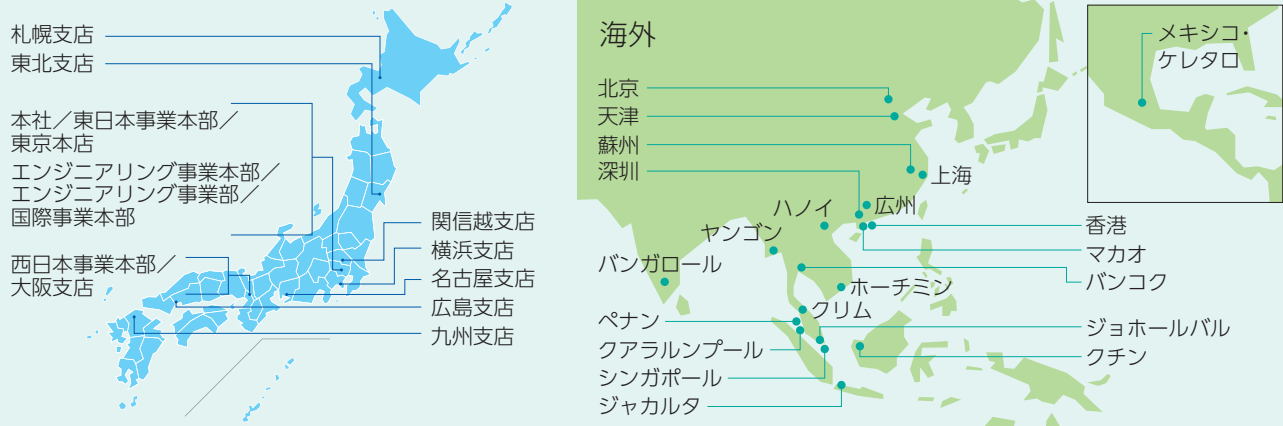
所 在 地
〒160-0022
東京都新宿区新宿六丁目27番30号

資 本 金
13,134百万円

従業員数
4,809名(当社 1,944名)

ホームページ
<http://www.tte-net.com>

主要な拠点



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本生命保険(相)	4,560	6.17
第一生命保険(株)	4,231	5.73
高砂熱学従業員持株会	3,554	4.81
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	2,513	3.40
(株)三菱東京UFJ銀行	2,346	3.17
高砂共栄会	2,232	3.02
(株)みずほ銀行	2,177	2.94
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	2,065	2.79
(株)京王閣	1,016	1.37
UBS SECURITIES LLC - HFS CUSTOMER SEGREGATED ACCOUNT	1,006	1.36

(注) 1. 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(8,951千株)を控除して計算しております。
3. 持株比率は、小数点第3位以下を切り捨てて表示しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会の議決権・期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告する一定の日

株主名簿管理人
〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

郵便物送付先
[お問い合わせ先]
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
取次事務は三菱UFJ信託銀行株式会社全国各支店で行っております。

単元株式数 100株
公告方法 電子公告により当社ホームページに掲載 <http://www.tte-net.com>
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載

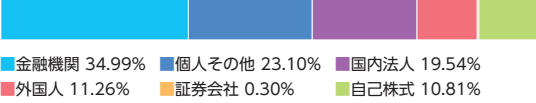
配当金計算書について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告の際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。
ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告の際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願い申し上げます。

株式の状況

発行可能株式総数 200,000,000株
発行済株式の総数 73,813,855株
(自己株式 8,951,913株を除く)
株主数 5,949名
(前事業年度末比 22名減)

所有者別株式分布



所有数別株式分布



株式に関するお問い合わせ

- ・届出住所等のご変更
- ・配当金の受領方法・振込先のご変更
- ・単元未満株式の買取のご請求

口座を開設されている証券会社までお問い合わせください。

- ・特別口座に関するご照会
- ・郵送物の発送と返戻に関するご照会
- ・支払期間経過後の配当金に関するご照会
- ・その他株式事務に関する一般的なご照会

三菱UFJ信託銀行株式会社

証券代行部まで

お問い合わせください。
☎ 0120-232-711
(平日午前9時～午後5時)

INFORMATION

日経IR・投資フェア2016

当社は、平成28年8月26・27日に東京ビッグサイトで開催された「日経IR・投資フェア2016」に出展しました。大規模な個人投資家向けIRイベントの参加は初めてでしたが、2日間で1万6千名が来場し、1割強の方に当社の資料をお渡しするとともに、会社の概要を説明しました。



東証IRフェスタ2017

当社は、平成29年2月24・25日に有楽町駅前の東京国際フォーラムで開催される「東証IRフェスタ2017」に出展します。出展ブースでは、企業活動に関する資料を展示して事業内容や成長戦略などについて随時ご案内します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



東証IRフェスタ2017

ホームページのご紹介

当社は、ホームページを重要な情報発信源の一つと認識しており、決算情報のみならず皆様のご理解に資すると判断した情報は、随時ホームページに掲載しております。ぜひ、ご活用ください。



<http://www.tte-net.com>

高砂熱学



IRカレンダー

	第1四半期			第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
決算発表	● 期末決算発表			● 第1四半期決算発表			● 第2四半期決算発表			● 第3四半期決算発表		
株主総会	● 招集通知発送			● 定時株主総会開催								
配当金							● 中間配当株主確定			● 期末配当株主確定		
有価証券報告書				● 有価証券報告書発行								
四半期報告書				● 第1四半期報告書発行			● 第2四半期報告書発行			● 第3四半期報告書発行		
株主向け報告書				● 株主向け報告書(期末)発送						● 株主向け報告書(中間期)発送		
CSR報告書				● CSR報告書発行								



高砂熱学工業株式会社
Takasago Thermal Engineering Co., Ltd.

〒160-0022 東京都新宿区新宿六丁目27番30号
電話 03(6369)8212(代表)
<http://www.tte-net.com>



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

